

投資計画

第8次増資 2025年
エグゼクティブサマリー



エグゼクティブ サマリー

グローバルファンドのパートナーシップは、ドナーによる資金から大規模な効果をもたらす実績あるモデルです。グローバルな専門知識と現地におけるリーダーシップ、民間セクターの機敏性とコミュニティの知見や熱意、そして政府の力と市民社会の影響力をそれぞれ組み合わせることで、グローバルファンドはその効率性、効果、適応力の面で比類のない組織です。

コンゴ民主共和国・マルクにあるマルク総合病院の子ども。様々な課題に直面するにもかかわらず、グローバルファンドによる投資は同国で大きな効果を上げており、過去20年間にわたってHIV発生率と死亡率を着実に減少させ、結核の新規患者報告数を増加させています。世界で2番目にマラリアの疾病負担の高い同国で、2002年以降マラリアによる死亡者数が25%減少しました。

The Global Fund/Vincent Becker

2019年4月に数百人の子どもたちがHIV陽性となったパキスタン・ラトデロにて、自宅で遊ぶ子どもたち。アウトブレイクは、安全性の低い医療行為や廃棄物管理と関連していました。グローバルファンドはパートナーと協働し、命を救う抗レトロウイルス薬や必要な保健医療サービスをこの地域の子どもたちに提供し続けます。

The Global Fund/Vincent Becker

今こそ正念場

今こそエイズ、結核、マラリアとの闘いにおける正念場です。20年間でグローバルファンドのパートナーシップは目覚ましい発展を遂げ、6500万の命を救い、三疾患を合わせた死亡率を63%減らしました。人々はより長く生き、より健康的な生活を送れるようになり、豊かな国と貧しい国との間で平均余命の格差は縮小しています。例えば、ザンビアでは、2002年にわずか43歳であった平均余命が、2021年には58歳まで大幅に延びました。こうした大きな延びの3分の2以上は、エイズ、結核、マラリアの死亡者数の減少によるものです。



新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる打撃、ならびに経済的な困難、紛争、気候変動、人権とジェンダー平等の侵害の課題があるにもかかわらず、私たちはエイズ、結核、マラリア対策において着実な進展を続けています。命を救い、暮らしを改善し、世界の健康安全保障を強化するという私たちの揺るぎないコミットメントにより、持続可能な開発目標3 (SDG 3) のターゲットである三大感染症の流行という公衆衛生の脅威を2030年までに終息させることが達成可能な位置にいます。

しかし、この目標が達成可能な位置にいることと、実際に達成することは異なります。私たちが得た成果はもろく、瞬間に失われかねません。エイズ、結核、マラリアは手ごわい課題であり、勢いを少しでも緩めると、これまでの努力がすぐにふいになってしまいます。感染症との闘いに妥協点はありません。つまり、勝つか負けるかです。私たちは後退することはできません。私たちは投資を維持し、革新と効率性の向上に一段と注力しなければなりません。

エイズ、結核、マラリアとの闘いに勝つことができれば、大きな成果が得られます。何百万もの命が救われるだけでなく、起こりうる保健医療上の脅威への備えを強化し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) に向けた歩みを加速させ、より強靱かつ健康的で、経済的生産性の高いコミュニティを築くことにもつながります。女性や少女、社会的に疎外された人々、最も脆弱なコミュニティを不利な立場に追いやる、保健医療の不平等に取り組むことは、より公正で安定した平和な世界を築くための前提条件となります。

この目標を達成するには、膨大な疫学のおよびそのほかの課題を乗り越えなければなりません。しかし、その機会は大きく広がっています。検査、治療、予防における画期的な革新は、三疾患全体の感染者数と死亡者数をさらに激減させる可能性を秘めています。人工知能 (AI) をはじめとするデジタル技術は、たとえ最僻地であっても、保健医療サービスへのアクセスと提供方法を根本から変革しています。

グローバルファンドのパートナーシップは、ドナーによる資金から大規模な効果をもたらす実績あるモデルです。グローバルな専門性と現地におけるリーダーシップ、民間セクターの機敏性とコミュニティの知見や熱意、そして政府の力と市民社会の影響力をそれぞれ組み合わせることで、この独自のパートナーシップはその効率性、効果、適応力の面で比類のないものになっています。

これまでに苦勞して勝ち取った成果と進歩を持続させるために支援する国々と連携することは、グローバルファンドのアプローチの基本です。持続可能性を高めるには、疾病負担の軽減に継続的に投資すると同時に、感染症の終息に向けてより大きな資金の動員と責任を担えるよう、こうした国々を手助けすることも必要です。グローバルファンドは、持続可能性に対して包括的なアプローチで取り組んでいます。新しい技術やサービス提供の拡大を支援し、支援する国々が国内資金をより良く、より効率的に活用することを促進し、強力な持続可能性と移行計画を支援することで、各国が段階的に感染症対策のリーダーシップを発揮できるよう後押ししています。三疾患の終息

に向けた取り組みを促し、継続的に前進させるために、こうした計画は、各国の疫学のおよび財政状況を考慮する必要があります。最終的には、私たちが支援する国々が、自力で取り組みを継続するためのツール、リソース、知識を身につけられるようにすることが目標です。

グローバルファンド戦略の2028年のマイルストーンを達成し、SDG 3のターゲットを実現可能なものにするには、私たちは次の3年間の事業実施期間に180億米ドルを調達する必要があります。この金額を調達することにより、私たちは様々な生物学上の技術革新を三疾患の対策に十分に活用することができます。また、命を救う保健医療サービスの提供に不可欠なインフラや能力に投資することができます。三疾患対策や保健医療に投じられる国内資金の動員を促進し、各国が三疾患対策を進める上で不可欠な介入策への追加投資を行えるよう支援し、さらに支援する国々がそうしたリソースを有効活用できるよう後押しできます。

最も重要なのは、180億米ドルの調達により、さらに2300万の命を救い、4億件以上の新たな感染を回避できることです。グローバルファンドが支援する国々で、三疾患を合わせた年間の死亡者数を2023年の230万人から、2029年には92万人にまで減少させることができます。

しかし、2005年に400万人を超えていたエイズ、結核、マラリアによる死亡者数を、2029年には100万人未満に減らすことができれば、極めて大きな成果となります。世界のエイズ、結核、マラリアによる死亡者数の半減には、18年を要しました。適切なリソースがあれば、わずか6年間でさらに死亡者数を半分以上減らすことができます。

エイズ、結核、マラリアの流行の終息は、命を救い、貧困を克服する最も有効な方法の一つです。こうした感染症の影を消し去ることで、コミュニティが繁栄し成功する機会がもたらされます。子どもや若者たちは感染症から脅されることのない世界で生きることができます。より強固で強靱な保健システムを構築することで、「全ての人に健康と福祉を」というSDG 3の目標は実現できます。私たちは全力を尽くします。そして決して立ち止まりません。

効果を大規模に実現

グローバルファンドのパートナーシップは、2030年までにエイズ、結核、マラリアの流行を終息させるというSDG 3のターゲットに向けて引き続き歩みを進めています。国が主導する事業にグローバルな科学と技術の専門知識を組み合わせ、政府、市民社会、コミュニティ、民間セクターの相互補完的な強みを活用することにより、この独自のパートナーシップは極めて大きな効果を実現しています。

HIVとの闘いでは、「公衆衛生上の脅威であるエイズの流行を2030年までに終息」というSDG 3のターゲットが今や手が届くところまでできています。過去20年間で、グローバルファンドの支援する国々における新規HIV感染者数は61%、エイズ関連死亡者数は73%、それぞれ減少しました。国連合同エイズ計画の「95-95-95ターゲット」を達成、またはそれに近づく国々が増え、また長時間作用型注射による曝露前予防（PrEP）などの、新しく強力な予防ツールの登場により、世界で4200万を超える命を奪ってきたパンデミックを終息させることができるようになりました。新しい予防ツールを大規模に導入することで、新規感染を大幅に減少させ、この感染症による将来の人的・経済的損失を劇的に抑えることができます。「公衆衛生上の脅威であるエイズの流行の2030年までに終息」が実現すれば、極めて多くの死亡とHIV新規感染を防ぎ、4000万人近いHIV陽性者が長生きし、より健康的な暮らしを営むことができます。

結核との闘いでは、資金に加え、世界の関心が不十分であることが課題となっています。グローバルファンドの設立以来、結核による死亡者数は40%減少しましたが（HIV陽性者の死亡者数を除く）、新規感染者数はグローバルファンドが支援する国々で1%増加しています。現在、世界で最も死亡者数の多いこの感染症における対策で、かつてない勢いが見られます。2023年、グローバルファンドが支援する結核対策は、新型コロナウイルス感染症による後退から完全に回復し、結核患者の発見と治療を受けた人数が過去最大となる記録的な成果を収めました。この勢いを維持し、市場形成を通じて実現した価格低減を活かして、新しい診断、予防、治療ツールの可能性を最大限に活用することで、結核の発症件数と死亡者数の推移に決定的な変化をもたらすことができます。2030年までに結核の流行を終息させることは厳しいですが、2035年までに結核のパンデミック終息させるために、結核終息戦略の軸道の進展を加速することはできます。

2030年までにマラリアの流行を終息させる道のりは、引き続き困難な状況にあります。グローバルファンドの設立以来、マラリアによる死亡者数は支援する国々で29%減少しましたが、発生件数は2015年以降増加しています。気候変動、紛争、抗マラリア薬や殺虫剤に対する耐性の増加が、私たちの行く手を阻んでいます。資金が不十分であることから、最も深刻な影響を受けている国の多くでは、ベクターコントロール（媒介生物制御）、予防、治療の面で常にギャップが生じています。こうした課題に対処するには、発生件数と死亡率を大幅に減少させる必要があります。私たちには、効果が実証されたツールのほか、ベクターコントロール、予防、診断、治療において新たに導入可能な革新的なツールがあります。適切なリソースを投入し、特定の疫学的状況に合わせて最適なツールを展開することで、警戒すべき疫学的傾向に対処し、感染症の流行の終息に向けた進展を大幅に加速させることができます。

過去20年間に私たちがエイズ、結核、マラリア対策で達成した成果により、平均余命の世界的な不平等を3分の1縮小することができました。こうした進展は、UHCを目指す歩みを加速させることにも大きく貢献し、世界中の何百万もの人々へ、より良い保健医療を届けています。最新の分析¹では、UHCサービス普及指数は2000年の45%から、2021年には68%に改善しており、この改善の70%が三疾患との闘いで達成された進展によるものとしています。

さらに、過去20年間に私たちがエイズ、結核、マラリア対策で達成した成果により、ヘルスケアシステムの貴重なリソースとキャパシティを他の疾患への対応に活用できるようになりました。結果的に、保健システムとコミュニティ・システムは、感染症の発生やパンデミックに対応できるようになり、生殖と母子保健などの命にかかわる対策が提供できるようになりました。設立から2023年末までに、グローバルファンドのパートナーシップによるエイズ、結核、マラリア対策への投資は、推定で29億日の入院日数を削減し、55億件の外来数を回避し、1030億米ドルのコストを削減しました。²これらの数字は1年あたりに換算すると、1億3100万日の入院日数、2億4900万件の外来数、47億米ドルの節約に相当します。この調査結果を考察すると、グローバルファンドが支援する100以上の国々において、全病床数の22%に相当する効率性が達成されていることになります。

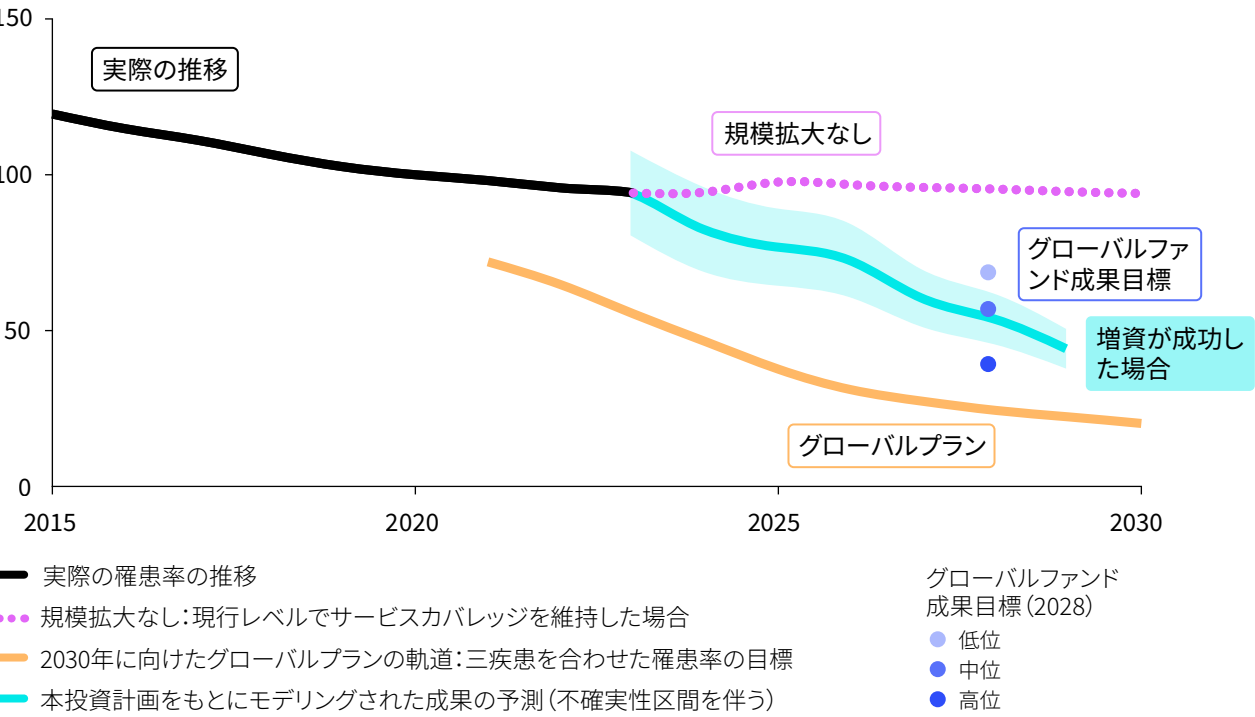
1. Tracking Universal Health Coverage: 2023 Global monitoring report. 世界保健機関および世界復興開発銀行／世界銀行, 2023. <https://www.who.int/publications/item/9789240080379>.

2. これらの成果は、グローバルファンドが支援する国々での過去20年間にわたる重要なエイズ、結核、マラリア関連サービスの規模拡大を、同じ国で同じ期間、このサービスの規模拡大がなかったと仮定したシナリオと比較し算出しました。グローバルファンド設立時から2023年までに資金分配を受けた国が対象です。

エイズ、結核、マラリア流行の将来予測 数理モデルによる投資計画の結果

図1
三疾患を合わせた罹患率

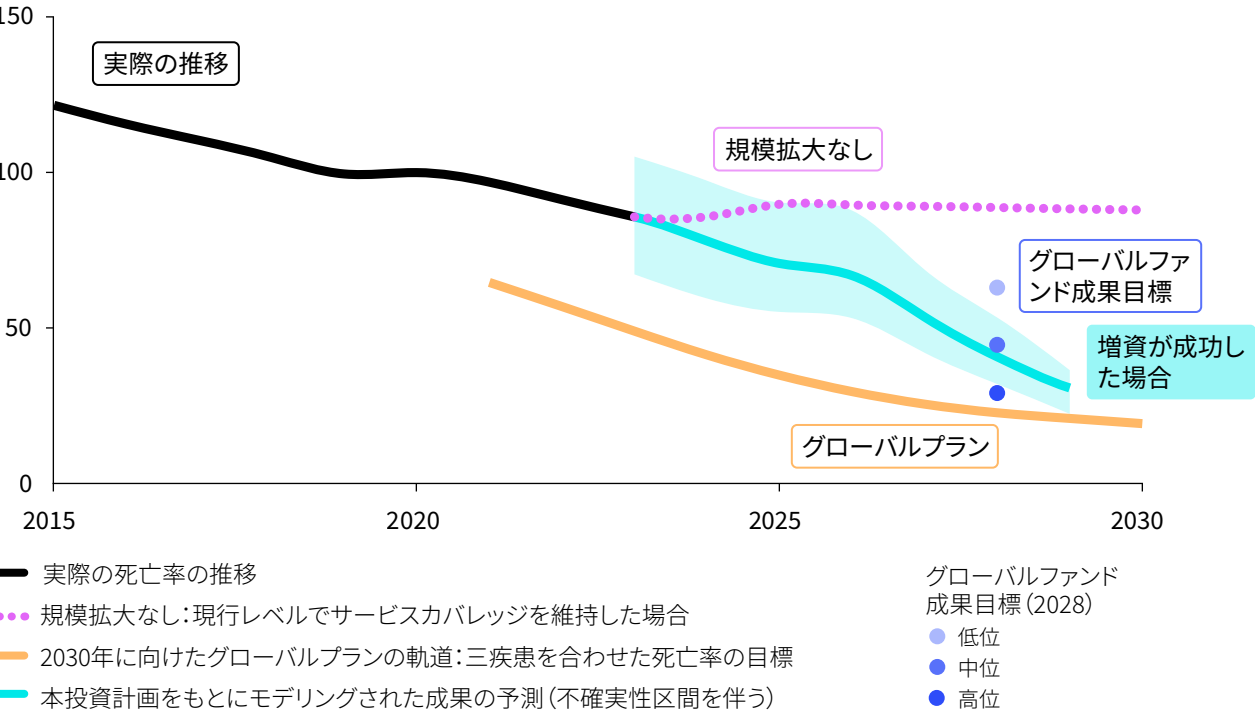
データは、最初に三疾患について2020年の各数値を100で標準化し、次いで等しい比重で合算されています。



KPI 11および12の定義と整合性を保つため、マラリアに関してはサブサハラ・アフリカ地域の国々のデータを使用。

図2
三疾患を合わせた死亡率

データは、最初に三疾患について2020年の各数値を100で標準化し、次いで等しい比重で合算されています。

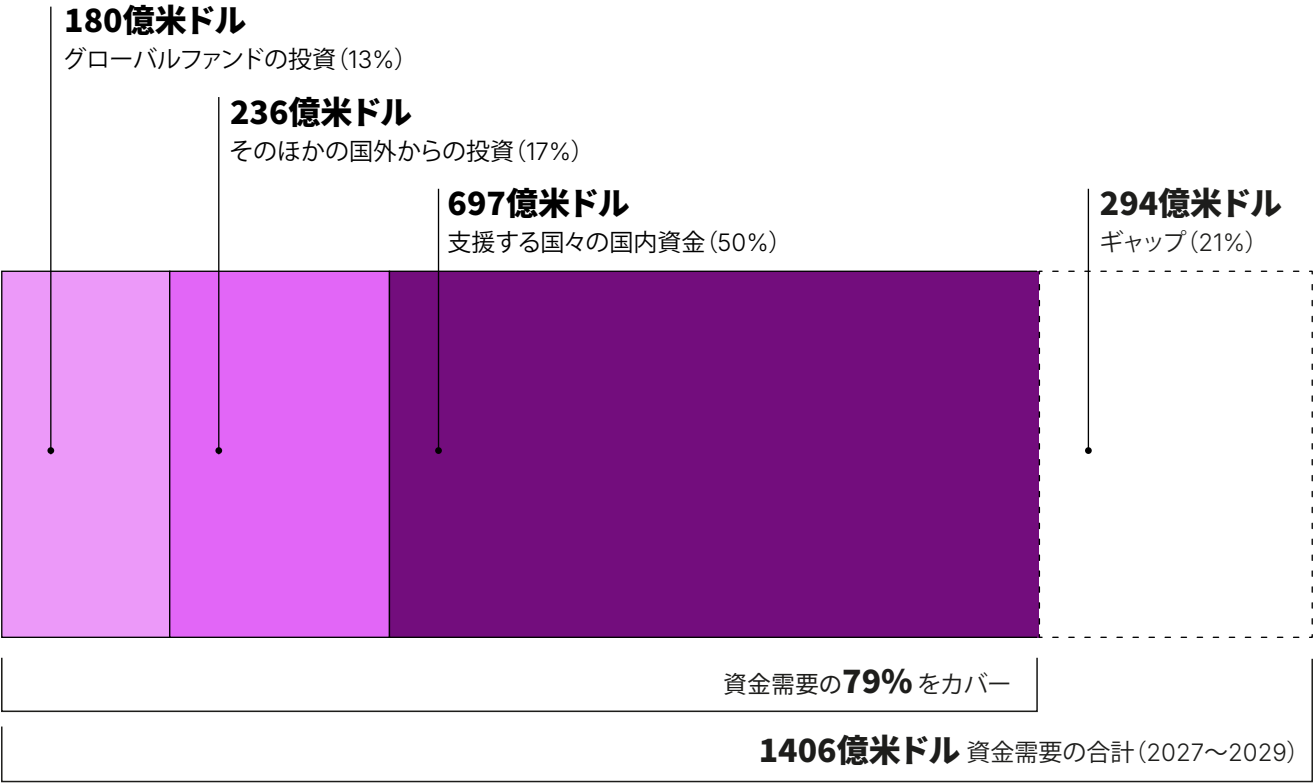


KPI 11および12の定義と整合性を保つため、マラリアに関してはサブサハラ・アフリカ地域の国々のデータを使用。結核の死亡率からはHIV合併結核患者を除外。

図3

グローバルファンドが支援する国々におけるエイズ、結核、マラリア対策の資金需要と予想投資額

グローバルファンドが支援する国々における



投資計画本編のうち、エイズ、結核、マラリアの資金需要の予測については、Annex 1「Methodology」を、エイズ、結核、マラリアの予想投資額については、Annex 2「Methodology」を参照。

感染症に特化した対策を実施する以外にも、グローバルファンドは保健システムおよびコミュニティ・システム強化への無償資金を供与する世界最大の国際機関です。毎年約20億米ドル³を投じて、気候変動に強い、危機に対応できる保健システムとコミュニティ・システムを構築し、最も貧しく社会的に弱いコミュニティで生活する人々を支援しています。

保健システムとコミュニティ・システムへのこうした投資は、エイズ、結核、マラリアに関する私たちの目標達成に不可欠であるだけでなく、より広範なメリットをもたらします。人々を中心とした包括的なプライマリ・ヘルス・ケアの基盤を構築するために各国を支援することで、私たちはコミュニティにおけるより広範な心身の健康の改善を促進しています。例えば、医療用

酸素へのかつてない規模の投資は、約5億6400万米ドルに上り、妊産婦や新生児ケアの改善、急性外傷への対応、様々な外科治療を可能にし、命を救っています。グローバルファンドは、三疾患との闘いを推進するだけでなく、国々のパンデミックへの備えを強化し、薬剤耐性の問題への対応能力も向上させています。検査機関と診断、保健システムのサプライチェーン、疾病サーベイランスシステム、デジタルプラットフォーム、廃棄物管理を含む感染予防と管理、公衆衛生の能力等の重要インフラと人材の開発に投資することで実現しています。新型コロナウイルス感染症における対応と、最近ではエムボックスへの対応において、このような新しい脅威に対抗するための投資の価値が示されました。

医師や看護師をはじめとする医療従事者、コミュニティ・ヘルスワーカー、コミュニティを基盤にしたネットワークなど、保健分野の人材への投資は、保健システム全体の効果と強靭性を高めるために不可欠です。グローバルファンドは、UHCの「U（ユニバーサル）」を実現にするにあたって極めて重要とされる、保健サービスへのアクセスを阻む人権やジェンダー関連の障壁への対応に特に焦点を当てた取り組みを行っています。

全ての投資において、独自のパートナーシップと運営モデル、規模、徹底した結果重視の考え方による強みを活かし、1米ドルあたりの投資効果を最大化しています。運営費はドナーの拠出誓約額のわずか6.2%、各国に割当てられた資金に対する供与額は96%を超え、プログラムの実行率は85%を超えています。グローバルファンドは、ドナーによる資金から大規模な効果をもたらす極めて効果的かつ効率的なメカニズムです。

効率性を重視しているからこそ、グローバルファンドのパートナーシップによる投資から高い投資利益率が生み出されています。また、購買力を活かして、命を救う医療製品や医薬品の大規模な調達を行っています。この規模を活かすことで、市場の形成を後押しし、価格を引き下げ、画期的なイノベーションを最も必要としている人々に提供できるようにしています。その結果、最も脆弱な人々を中心に、健康に必要な製品がより多くの人々に届けられています。このアプローチは、資金供与の効果を最大限に高めるだけでなく、医療が最も必要な地域で、保健システムの長期的な持続性も高めています。このパートナーシップは、命を救い、暮らしを改善しており、効率性と目的を掲げて私たちが行動することで、目覚ましい効果をもたらすことを証明しています。

危機において機敏性と強靭性を証明

気候変動、紛争、経済的な困難、政治的緊張、人権とジェンダー平等の侵害など、重複する危機に直面する世界で、グローバルファンドのパートナーシップは、各国で機敏性をもって対応し、強靭性を高めることができます。これらの危機の影響と動向は地域や国ごとに異なりますが、常に人々を命に関わる感染症のリスクに晒します。

グローバルファンドは、このような危機に対応するため、コミットメントと柔軟性を組み合わせ、国々が危機に対応できるように支援します。例えば、新型コロナウイルス感染症が発生した際、グローバルファンドは、支援する国々が既存の供与資金のうち、節約した資金を新型コロナ対策にも活用できるよう速やかに対応し、診断検査や治療、医療器具の調達を支援し、最前線で働くヘルスワーカーを個人用防護具（PPE）で保護し、エイズ、結核、マラリア対策を適応させ、サプライチェーンや検査機関ネットワークなどの保健システムの重要な要素を強化しました。また、数週間で新型コロナ対応メカニズム（C19RM）も立ち上げ、追加の資金を供与しました。ドナーの寛大な支援により、C19RMを通じて約50億米ドルを供与し、支援する国々が迅速かつ大規模にパンデミックに対応できるようにし、今後の脅威に対する強靭性を高めることができました。

グローバルファンドのパートナーシップが発揮する機敏性は、紛争や人道上の危機、気候変動による異常気象などの災害、エムボックスやエボラ出血熱、マールブルグ病などの他の公衆衛生の脅威をはじめとする、その他の問題への迅速な対応でも証明されてきました。無償資金供与プログラムの変更、ポートフォリオの最適化、C19RMのような特別なメカニズム以外にも、グローバルファンドでは緊急支援ファンドを通じて、危機のときに確実に保健サービスが提供されるよう、資金を迅速かつ柔軟に提供します。2014年の緊急支援ファンド設立以来、様々な国で命を救うエイズ、結核、マラリアの保健医療サービスを継続できるよう1億4900万米ドル以上⁴を供与してきました。

グローバルファンドは、こうした危機への対応だけでなく、強靭性を高め、十分な備えをする取り組みにおいても、各国を支援しています。新型コロナウイルス感染症への対応では、備えが不十分な保健システムがもたらす人的損失と経済的損失をまざまざと見せつけられました。疾病サーベイランス、検査機関と診断、サプライチェーン、コミュニティ・ヘルスワーカー、感染予防と管理、医療用酸素への投資を通じて、グローバルファンドは、今やパンデミックの備えのための低・中所得国向けに無償資金を供与する世界最大の国際機関となっています。その一方で、洪水や極暑、サイクロンなど、気候変動が引き起こす異常気象の発生頻度が高まるにつれて、グローバルファンドが投資する国々の多くで気候変動に対する保健システム・インフラの強靭性を高める必要があることが示されています。この課題に私たちは、中核となる投資と、最近設置した気候・健康触媒基金を通じて対応していきます。

3. この金額は、強靭で持続可能な保健システム（RSSH）への直接的な投資とエイズ、結核、マラリア対策を通じたRSSHへの投資を含む、グローバルファンド戦略委員会の手法に基づきます。この金額は、承認および調印済みの無償資金予算とRSSH関連の触媒的投資に基づき、C19RMを含みます。この手法では、グローバルファンド事務局の運営費を除外しています。

4. 2024年12月時点。

エイズ、結核、マラリア終息の機会を捉える

グローバルファンドの第8次増資は、エイズ、結核、マラリアとの闘いにおいて、極めて重要な意味を持ちます。過去20年間の成功をもとに、効果の高い多様な革新がもたらす機会を活かし、三疾患の流行の終息に向けた歩みを加速させることができます。最もリスクに晒されている人々に新しい長期作用型HIV予防ツールを大規模に展開することは、新規感染予防に劇的な効果をもたらし、結果としてこの感染症の推移を急激に変化させることができます。新規感染者数が大幅に減少すれば、エイズとの闘いをより持続可能にやすくなります。二重有効成分 (AI) を備えた殺虫剤処理蚊帳や新たな第一選択薬、ワクチン、季節性マラリアの化学的予防法など、新しいマラリア対策ツールを大規模かつ最適に導入することで、再びマラリア終息に向けた軌道に乗ることができます。携帯型X線装置や低価格の分子診断機器など、結核との闘いにおける新しいツールと、新しい治療や予防的治療によって、過去2年間の成果が出してきた勢いに弾みをつけることができます。

エイズ、結核、マラリアとの闘いにおける勢いを取り戻し、維持するには、このような革新に対する公平なアクセスを大規模に推進することが重要です。第8次増資での新たなコミットメントにより、グローバルファンドは民間セクターのイノベーター、技術パートナー、政府、慈善活動家、市民社会とコミュニティなどのパートナーと協働して、市場を形成し、これらツールを最も必要とする人々に提供できるようになります。

第8次増資の成功により、ヘルスワーカーやコミュニティ・ヘルスワーカーなどの人材をはじめとする保健システムとコミュニティ・システムの能力、サプライチェーン、検査機関システムと診断、疾病サーベイランス、保健管理情報システム、医療用酸素と呼吸器ケア、薬剤耐性と感染の予防および管理、人権とジェンダー平等プログラム、コミュニティ主導のモニタリング等

の分野への積極的な投資も引き続き可能となります。また、広範な保健システムとコミュニティ・システムへのエイズ、結核、マラリア対策の統合を進めることもできます。こうした投資は、エイズ、結核、マラリア関連の目標を実現するのに不可欠であり、健康安全保障の強化とUHCに向けた進展を加速するのに極めて重要です。

グローバルファンドが支援する国々は、第8次増資におけるドナーのコミットメントと同等以上の意欲的なコミットメントを表明し、国内資金の規模の拡大と質の向上を通じて三疾患と闘い、保健システムを強化し、アクセスへの障壁に立ち向かう必要があります。三疾患と闘うための国内資金動員は、すでに国際援助資金を大きく上回っています。ただし、資金源の移行を加速し、脆弱なキーポピュレーション（訳注：エイズ対策を進める上で鍵となる集団）への抗レトロウイルス薬やサービスなどの具体的なプログラムに基づいた対策に投資できるよう各国を迅速に支援することが極めて重要です。より多くの資金を最貧国に振り向け、共同出資の要件をより厳格かつ明確にし、パートナーと協働して強固な持続可能性計画と移行計画を策定するよう各国を支援することで、グローバルファンドは持続可能性の課題の解決へ全力を尽くします。

保健への投資は、人々の暮らしを改善し、コミュニティを再活性化する最も費用対効果の高い強力な手段の一つであり、社会・経済発展を広範に推進し、不平等を減らし、保健に関する世界的なリスクを低減します。保健への投資に対する論理とリターンには、依然として説得力があります。私たちは、三疾患の死亡者数と罹患による影響を軽減させ、最貧国であっても保健システムの能力と強靭性を高めるなどの成果をあげてきました。今こそ、これまでの成果で得た革新を活かし、三疾患を永久に終息させるという最高の成果をつかむ絶好の機会です。



イダ・ネニ・ハルヤンティはインドネシア・パタム島にある環境衛生センターのウイルス学研究室のリーダーで、ゲノム解析装置を使って微生物の遺伝子を調べています。この手法によって感染症と闘い、将来的な脅威に対して備えることができます。

The Global Fund/Jiro Ose



私たちの戦略目標を達成し、2030年の三疾患に関連するSDG 3ターゲットを達成するために、グローバルファンドは第8次増資で180億米ドルを調達する必要があります。この金額は、エイズ、結核、マラリアとの闘いに必要なペースで前進を促し、保健システムとコミュニティ・システムへの必要な投資を維持するために不可欠な額です。この数字は、主要な学術機関のほか、世界保健機関（WHO）、国連合同エイズ計画（UNAIDS）、ストップ結核パートナーシップ、マラリア終息のためのRBMパートナーシップなどの技術パートナーとの協力により、広範かつ厳格なモデル分析を実施して算出しました。

技術パートナーによる最新のグローバルプラン⁵では、第8次事業実施期間（GC8）、つまり2027年から2029年の期間にグローバルファンドが支援する国々でのエイズ、結核、マラリア対策に必要な資金需要の合計予想額は1406億米ドルに上るとされています。これは、第7次事業実施期間（GC7）、2024年から2026年の期間と比べて、資金需要が104億米ドル（8%）増加していることを表しています。

この合計額に対して、支援する国々の国内資金の動員は697億米ドル、その他の国際援助資金額は236億米ドルと推定しています。グローバルファンドによる180億米ドルの投資と、これら推定される国内資金とその他の国際援助資金によって、2027年から2029年のグローバルプランにおける資金需要の79%が満たされますが、294億米ドルがギャップとなります。ただし、このギャップがあったとしても、180億米ドルの投資の効率を最大限に高め、市場形成により実現した価格低減のメリットを十分に活かせば、引き続きグローバルプランで目指す成果の実現が手に届く位置まで近づくと考えられています。例えば、グローバルファンドの市場形成の取り組みを通じて、主要な物資や医薬品の価格低減が実現したことで、2027年から2029年のコスト削減額は98億米ドルになると推定されます。⁶

180億米ドルを調達できれば、支援する国々がその約3分の1である60億米ドルを保健システムとコミュニティ・システムの強化と統合に投資できる、と私たちは期待しています。これにより、三疾患に対する闘いを支え、パンデミックへの備えや気候変動への耐性を強化し、UHCに向けて前進できると考えています。

全体の資金需要は8%増加していますが、第8次増資の目標額である180億米ドルは、第7次増資で設定した目標額と同じです。2022年の第7次増資ではこの目標額に届きませんでしたが、157億米ドルという記録的な誓約額を達成しました。C19RMの残りの資金と、第7次増資で調達した資金を合わせることで、グローバルファンドのパートナーシップは現在の事業実施期間（GC7）で180億米ドル近くを投資することができます。そのため、第8次増資で180億米ドルを調達することで、ほぼ現在の水準で各国を支援し続けることができます。グローバルファンドによる投資がほぼ横ばいとなるため、革新的なツールの供与を早め、国内資金を大幅に改善し、増やすことが、三疾患への対策の進展を加速させるのに不可欠です。

国内資金については、グローバルファンドは支援する国々に対して、最大の効果を得られる活動に国内予算による共同出資に注力するよう奨励しています。このようなのを絞ったアプローチは、三疾患の流行の終息に向けた進展を続けながら、持続可能性を高めて投資効率を最大化するための取り組みには極めて重要です。このようなアプローチは、世界全体で感染症への対応を加速させ、各国が主体性をもってより積極的に国内資金を保健プログラムに投資するために不可欠であり、ルサカ・アジェンダで提言されている5つの重要なシフトにも則っています。

私たちは、多くのドナーが財政的圧力に直面し、他にも様々な要請がある中で180億米ドルという目標を設定していることを認識しています。しかしながら、エイズ、結核、マラリアとの闘いにおける進捗に遅れが出れば、必然的に失われる命と経済的損失は大幅に増加してしまいます。財政・政治的コミットメントが緩んだことで、状況が急激に悪化したという例は無数にあります。また、エイズ、結核、マラリアに対する闘いは、極めて高い投資利益率を実現します。多くの人々の命を救うだけでなく、生産性を高め、社会・経済発展を推進し、世界中の多くのコミュニティを安定させます。

決して立ち止まらない

グローバルファンドのパートナーシップは、全ての人にとって、より健康的で公平な世界を創り出す上で、極めて重要な役割を果たしています。23年前、国際社会が一致団結し、エイズ、結核、マラリアの負担から世界を解放するという目標に向かう決意を表明しました。そのときから、私たちはこの目標を現実のものとするために闘い、力を結集し、大きな進歩を遂げてきました。

今、これらの疾患を終息させるためのツールを手にすることができました。グローバルファンドは、こうしたツールを最も必要とする人々に届ける、活動的で力強いパートナーシップです。常に変化に対応し、改善を重ねているグローバルファンドは、ドナーの資金が保健にもたらす効果を最大化する、極めて効率的で効果的なメカニズムです。グローバルファンドの第8次増資は、世界が三疾患との闘いへ立ち上がり、大胆な行動を起こす機会です。私たちは全力を尽くさなければなりません。決して立ち止まってはなりません。

5. 投資計画本編の図5を参照。

6. 長期残効型蚊帳および抗レトロウイルス薬の現在の調達価格と、最新のグローバルプランが推計した価格とを比較した場合の削減額です。グローバルファンドがこうしたコスト削減を継続するには、第8次増資の成功が不可欠です。

180億米ドルを調達することによりグローバル ファンドのパートナーシップができること:



2300万

の命を救う

2027年から2029年までに 2300万の命を救い、2029年までに三疾患合わせた死亡率を2023年比で**64%**低下させます。死亡者数を2023年の230万人から、2029年には92万人にまで減らします。

4億件

の新規感染を回避

2027年から2029年までに4億件の新規感染を回避し、2029年までに三疾患合わせた罹患率を2023年比で**54%**低下させます。感染者数を2023年の2億7100万人から、2029年には1億1900万人にまで減らします。

実現する投資利益率

1:19

エイズ、結核、マラリアとの闘いに投資される1米ドルにつき、19米ドル相当の健康増進と経済的利益をもたらします。180億米ドルの増資により、2027年から2029年までに**3230億米ドル**のリターンを生み出します。

- **保健システムとコミュニティ・システム、パンデミックへの備えを強化**
約60億米ドルを投じて、コミュニティ・ヘルスワーカーなど保健分野の人材、検査機関と診断、疾病サーベイランス、サプライチェーン、医療用酸素ケアおよび呼吸器ケア、デジタルヘルスと保健情報システム、強靱なコミュニティ・システムを強化します。

- **公平性の格差の縮小、およびサービスカバレッジの拡大の加速**
人権やジェンダーに関連する障壁に取り組み、市民社会やコミュニティと密接に協力して、社会から取り残された人々や社会的弱者に届く包括的な保健システムを構築することによって、エイズ、結核、マラリアへの対応における公平性の格差を是正し、取り残されている人々のためのサービス提供と人々の健康増進を加速させます。

- **平均余命の世界的な不平等を縮小**
低所得国の人々の平均余命は、高所得国と比べて非常に短いという世界的な不平等を、2023年から2029年までに7%低減します。

- **よりのが絞られ、改善された国内資金の促進**
エイズ、結核、マラリア対策、保健システムとコミュニティシステムへの投資においてよりのが絞られた国内資金の動員を実現し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジと質の高い医療への公平なアクセスを推進します。

- **気候変動へのレジリエンス向上**
エイズ、結核、マラリアによってこれまでの進展を阻まれることなく、進展の成果を気候関連の災害の影響から保護するために、気候変動に強い保健システムを構築します。

- **プライマリ・ヘルス・ケアにおいて420億米ドルのコスト削減**
2024年から2029年までにエイズ、結核、マラリア対策への投資によりプライマリ・ヘルス・ケアにおいて420億米ドルのコスト削減を実現し、2002年からのコスト削減総額を1450億米ドルにまで増やします。これにより、これまでの実績と合わせて、三疾患に起因する入院日数を16億日、外来数を31億件減らすことになります。

第8次増資での180億米ドルの調達により、グローバルファンド以外の国際援助資金の水率がこれまでと同様に維持され、各国による国内資金の規模の拡大、さらなる革新、協力、綿密な実行を実現することで、これら結果の達成に貢献します。

パラグアイ・アスンシオンのリズ・タチアナ・メレレスと子どもたち。リズとその家族は、洪水によって過去13年間で8回自宅からの避難を余儀なくされ、親類のもとに身を寄せたり、仮設住宅で過ごしたりしなければならませんでした。リズが結核の検査を受けた、サンフェリペのHealth for All Mutual Aid Centerは、国家的な結核啓発キャンペーンの一部であり、結核検査を受けられる安全で便利な場所の提供を目的とする施設です。

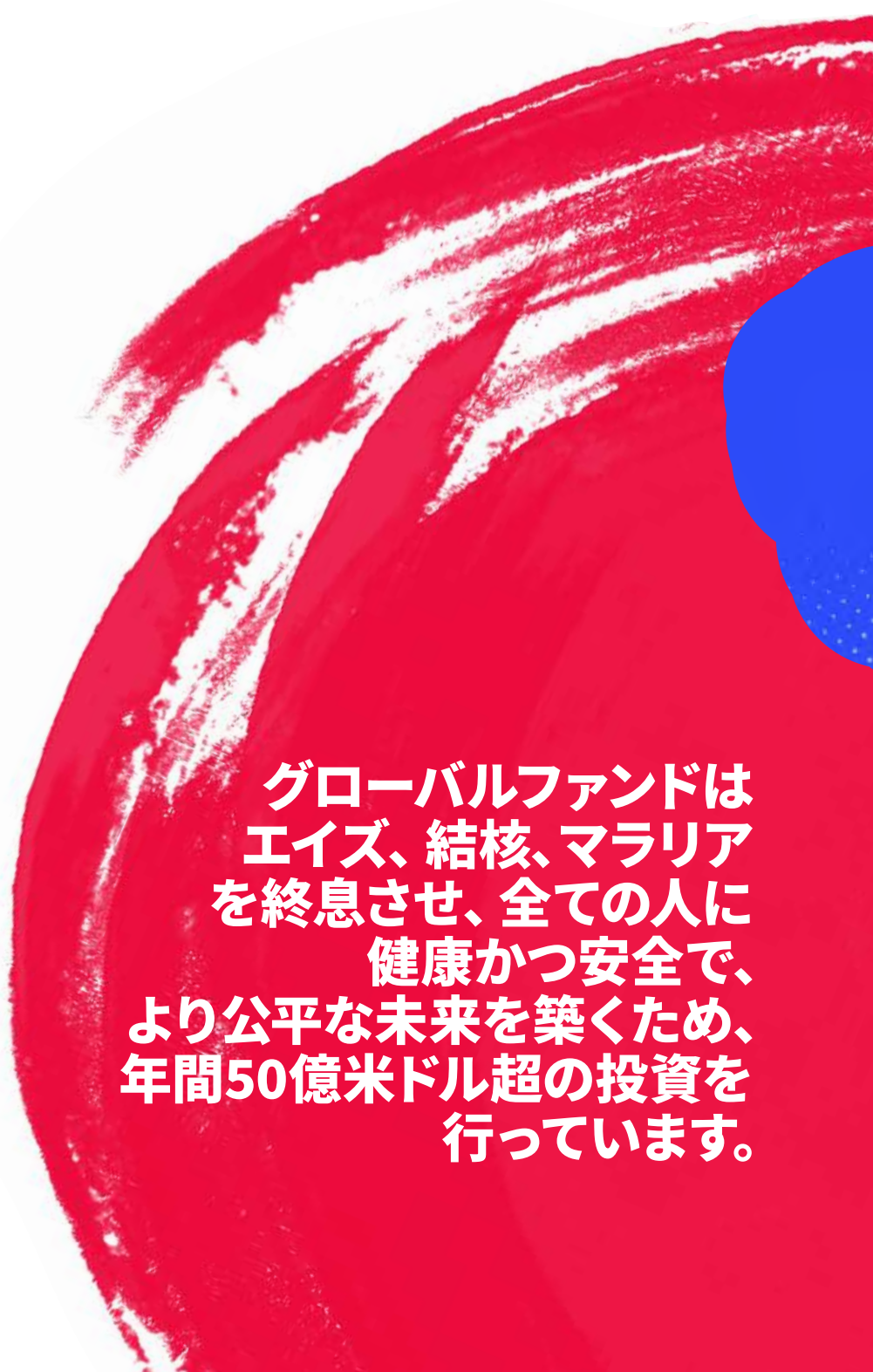
The Global Fund/Johis Alarcón/Panos



世界エイズ・結核・マラリア対策基金

Global Health Campus
Chemin du Pommier 40
1218 Le Grand-Saconnex
Geneva, Switzerland

+41 58 791 17 00
theglobalfund.org



**グローバルファンドは
エイズ、結核、マラリア
を終息させ、全ての人に
健康かつ安全で、
より公平な未来を築くため、
年間50億米ドル超の投資を
行っています。**